平成30年度

ケア付き青森ねぶた じょっぱり隊

ボランティア活動報告書

青森県立保健大学　地域連携・国際センター
ケア付きねぶた推進委員会

報告書の刊行に寄せて

青森県立保健大学　ケア付きねぶた推進委員会
委員長　　吉池　信男

暑い、熱いねぶたの季節はあっという間に過ぎし想い出となり、朝晩は肌寒く、木々は赤や黄に色づきはじめる頃となりました。今、こうして振り返ると、あの「８月３日」に向けて多くの人たちが準備を重ね、さまざまな思いを胸にそれぞれの役割を果たし、その貴重な体験がこれからの大きな糧となったのだなあと実感しました。

「青森」といえば「ねぶた」です。そして「保健大学」といえば「ヒューマンケア」です。県内外からこの４月に入学してきた看護・理学療法・社会福祉・栄養の約 220 名の学生たちにとって、青森は大切な学びの場であり、生活の場です。その土地の文化・風土を体感し、人々とのふれ合いの中で「ヒューマンケア」を学ぶことは、卒業後の長い人生において大きな財産となるでしょう。「ケア付き青森ねぶたじょっぱり隊」に参加したいからということを志望理由として語る受験生も少なくありませんし、実際に、半数近くの新入生がじょっぱり隊に参加しました。この活動は、あくまでもボランティアであり、学生の自発的・主体的な参加となりますが、さまざまな人々に寄り添いケアを実践することのできる学生の育成を目指す大学として、参加学生がより大きな果実を得ることができるよう、教員及び事務職員による推進委員会を組織し、「ボランティア養成講座」の開講をはじめとする学習支援を行ってきました。

本報告書は、ボランティアとして参加した学生諸君と、それをサポートしてきた本学の「ケア付きねぶた推進委員会」の活動の記録です。学生一人一人の学びをこのような形で記録に残し、今回の活動を振り返り、次につなげることができるのは、教育に携わる者として大きな喜びです。参加した学生諸君を含めて、多くの方々にこの報告書をご覧いただきたいと思っています。また、こうして振り返ると、自分たちの学びとともに、学生・教職員を合わせた 126 名の今回の活動が、ケア付きねぶたに参加された方々にお役に立つことが出来たのではないかと嬉しく思っています。

このような機会を私たちに与えて下さっている青森ケア付きねぶた“じょっぱり隊”実行委員会並びに関係の皆さまに、改めて深く感謝申し上げます。

We love “ケア付きねぶた” !! の気持ちで、来年も多くの方々がこの活動に参加し、大きな学びを得ることができることを祈念して、序文を終えたいと思います。

目次

報告書の刊行に寄せて

学生のボランティア活動支援について……1

ボランティア活動　準備編……2

ボランティア　当日編（８月３日）……5

ボランティア活動後 編……9

学生の思い・学び……10

ケア付きねぶた活動を振り返る会アンケート結果……20

ケア付きねぶた推進委員会の活動概要……23

学生のボランティア活動支援について

ケア付き青森ねぶた“じょっぱり隊”とは

ケア付き青森ねぶた“じょっぱり隊”とは、ノーマライゼーションの思想を地域に根付かせたいとの考えから、障害や年齢の枠を取り払い、「私が主役・みんなが主役」をスローガンに、全国の障害をお持ちの方や高齢者の皆さんが、日本の代表的なお祭り「青森ねぶた」に参加できるようボランティアが支援する取組です。ケア付き青森ねぶた“じょっぱり隊”実行委員会が主催し、今年度で第 23 回を迎えます。

ケア付き青森ねぶたボランティアで身につく力

本学では、ケア付き青森ねぶた“じょっぱり隊”に関連するボランティア養成講座やボランティア活動に参加することにより、本学のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）において学生が卒業時点で身に付けておくべき４つの能力学生のうちの一つである「自らを高める力」が養成されるものと期待しており、学生の学修の成果に対しては、単位認定を行っています。ケア付き青森ねぶた“じょっぱり隊”関連のボランティア養成講座、ボランティア及び振り返る会への参加は、「健康科学部共通科目」に属する「ヒューマンケア特殊講義」のⅠ又はⅡに定める多様な学習方法の一つとして認定しています。

「ヒューマンケア特殊講義」のⅠ及びⅡは、いずれも、１学年から４学年のどの学年でも履修できる科目ですが、ケア付き青森ねぶた“じょっぱり隊”に参加を希望する学生は、１年生が大半を占めます。大学に入学して間もない学生が、主体的に、障害のある方や高齢者の方と出会い、必要なサポートを学びながら実践することにより、教養、主体的学習力や表現力を身につけ、学んだことをレポートにまとめるという一連の流れを経験することで、「自らを高める力」を養い、将来、保健医療福祉の専門職に就くものとして、人間性を深めたり、保健医療福祉における新しい考え方などを学び、専門性を高めることができるものと期待されているのです。

大学の取組

上記の教育的意義をふまえ、本学では、平成 20 年度からケア付き青森ねぶた実行委員会と共催し、ケア付き青森ねぶた“じょっぱり隊”へ参加する学生の支援に取り組んできており、今年で 11 年目を迎えます。

平成 27 年度からは、学長を顧問とする教職員 12 名で構成する「ケア付きねぶた推進委員会」という専門委員会を組織し、学生及び教職員の積極的なボランティア参加を推進し、学生の効果的な学習支援に助力しています。

近年では、本学がケア付き青森ねぶた“じょっぱり隊”のボランティア活動を積極的に支援していることについて、入学前から知っている学生が増えてきました。そのような学生は、目的意識を持って楽しみにボランティア活動に参加しているようです。また、はじめて知ったという学生も、興味関心を持って参加してくれるようになりました。

ボランティア活動　準備編

6月20日（水）　第１回ボランティア養成講座の開講

日　時：平成30年６月20日（水）
　　17時40分～19時10分
場　所：A112教室
参加学生：56名
内　容：講演・体験発表
　①　講演：「ボランティアとは」
　　講師：社会福祉学科　杉山　克己　教授
　②　体験発表
　　発表者：８名（運行班・食料班・設営班・備品班経験者各２名）

昨年までの体験内容と感想、今年参加する学生へのアドバイス等を伺いました。

ボランティアの基本的な姿勢・心構え、じょっぱり隊の具体的活動内容等について理解を深めました。

平成30年度　第1回　ボランティア養成講座　参加学生数

	1年生	2年生	3年生	4年生	計
看護学科	23	4	0	0	27
理学療法学科	7	0	0	0	7
社会福祉学科	16	1	0	0	17
栄養学科	5	0	0	0	5
計	51	5	0	0	56

6月7日（木）～7月9日（月）　ボランティアの募集

募集チラシの配布や学内ポスター掲示などを行い、ボランティア募集を開始しました。

また、全教職員に対して教職員ポータルサイトで周知をした他、教員会議、職員会議それぞれにおいて参加を呼びかけ、ケア付きねぶた推進委員会からボランティア参加の案内をしました。

ボランティア募集締切り時には、学生98名、教職員26名の申し込みがありました。

7月上旬　ボランティアのしおり作成

ボランティア学生が不安なく活動に臨めるよう、7月上旬から大学独自のボランティアのしおり作成に取りかかりました。前年度に作成したしおりを元に、実行委員会より報告された変更点や昨年度の反省を活かし、全体スケジュールや班ごとの心得・動きについて修正・加筆し完成しました。

７月２１日（土）　第２回ボランティア養成講座の開講

日　時：平成 30 年７月 21 日（土）
　　10 時 00 分~10 時 40 分
場　所：A111 教室
テーマ：「ケア付き青森ねぶた
　　“じょっぱり隊”の活動」
講　師：ケア付き青森ねぶた実行委員会
　　平川　若菜 氏 、櫻田　優 氏
参加学生：65 名

実行委員会のメンバーを講師にお招きし、ケア付き青森ねぶたの歴史や取り組み、ねぶた参加者の想いをお話しいただきました。実行委員会や参加者の方々について知ることができ、みんなでじょっぱり隊を盛り上げていこうという意欲が高まりました。

平成 30 年度　第2回　ボランティア養成講座　参加学生数

	1年生	2年生	3年生	4年生	計
看護学科	22	2	2	0	26
理学療法学科	7	0	0	0	7
社会福祉学科	21	2	2	2	25
栄養学科	7	0	0	0	7
計	57	4	4	0	65

７月２１日（土）　ボランティア オリエンテーションの開催

第２回ボランティア養成講座開講と同日の７月 21 日（土）10 時 45 分～12 時 00 分には、A 棟１階 A111 教室で、参加学生 87 名を対象にボランティアオリエンテーションを開催しました。ここでは、ボランティアのしおりを全員に配付し、内容について説明するとともに、活動前に必ずすべてに目を通すよう学生にお願いしました。その他、班分け（暫定）の確認や、班ごとの役割の確認、MS メールの使用について説明しました。

ケア付き青森ねぶた“じょっぱり隊”実行委員会のスタッフの方々からは、車椅子の押し方、隊列運行や「ラッセラー」という掛け声の出し方についてご指導・ご助言をいただき、本番へ向け、活動のイメージをつけることができました。

平成 30 年度　オリエンテーション　参加学生数

	1年生	2年生	3年生	4年生	計
看護学科	30	2	2	0	34
理学療法学科	10	0	6	0	16
社会福祉学科	19	1	2	0	22
栄養学科	15	0	0	0	15
計	74	3	10	0	87

７月２５日（水）　定例記者発表

本学が開催する定例記者発表で、ケア付き青森ねぶた出陣について記者の方々に PR しました。ボランティア養成講座を実施して学生ボランティアを募っていることや、この時点でのボランティア参加学生・教職員数を発表しました。

８月３日（木）　ボランティア直前説明会の開催

学生対象は 10 時 30 分～12 時 00 分に A 棟 3 階 A305 教室にて、教職員対象には 13 時 00 分～13 時 30 分に C 棟 2 階 N 講義室 1 にて、それぞれ直前説明会を開催しました。

直前説明会では、全体の流れ、それぞれの役割と注意点、バス乗車時間等について説明し、実行委員会からいただいた“じょっぱり隊ポケットガイド”を配付しました。

学生対象には、最終的なスケジュール確認や伝達事項の説明も行い、その後、班ごとに分かれて打ち合わせを行いました。学生たちは、ボランティア活動を翌日に控え、真剣な面持ちで臨んでいました。ハネトとなる運行班は、車椅子の操作方法についての実演や着付けについて、実行委員の方や教職員から説明を受けて練習をしました。初めての経験に戸惑う学生もいましたが次第に慣れてきて、全員元気良く、生き生きした表情で練習に取り組んでいました。また、プライマリー・ケアを担当する学生には、担当する参加者情報を伝えました。　事前に参加者の身体状況や生活状況を把握し、万全を期して当日を迎える体制を整えました。

医師・看護師の派遣

ケア付き青森ねぶた“じょっぱり隊”実行委員会では、医療班、ケア班の医師・看護師の確保に毎年尽力しています。しかし、各医療機関でも医師・看護師不足である昨今、ボランティア協力もままならないのが現状のようです。

そこで、実行委員会からの要望により、本学の教員が医師・看護師として協力しています。今年度は、医師として看護学科の大西基喜特任教授と理学療法学科の渡部一郎教授、看護師として看護学科の角濱春美教授と山本明子助教にご協力いただきました。

ボランティア　当日編（８月３日）

運行班

前日までの猛暑と違って、ケア付きねぶたじょっぱり隊の活動日は、カラッとしていて、まさに、跳ねるにはベストコンディションと言ってもよい天気でした。

まずボランティア学生は、10 時半に県民福祉プラザに到着する参加者を、担当ごとにお出迎えをしました。初めは緊張の面持ちであった学生たちは、挨拶をして参加者と一緒の時を過ごすにつれて表情も和らいでいきました。交流会の時に、参加者やその家族の方の食べ物をもってきたり、お話を聞いたりして、とても和やかにコミュニケーションをとっていました。

厳粛な雰囲気の中で祈願祭が行われました。その後の結団式では、ボランティア学生が堂々と今年のテーマを発表し、ボランティア決起集会では、男子学生３名がじょっぱり隊の精神にのっとりボランティアをすることを元気よく誓いました。

19 時 10 分の開始を知らせる花火の合図で一瞬静まりかえりましたが、囃子がスタートすると同時に、「ラッセラー、ラッセラー」の掛け声で、ハネト学生らが一斉に「ラッセ、ラッセ、ラッセラー」と勢いよく跳ね始めました。ただ、初めは少し動きや掛け声は遠慮がちでしたが、あのじゃわめぐ囃子のリズムや沿道の「じょっぱり隊、頑張れ！」、「保健大、頑張れ！」の声援で、ハネト学生の跳ねる姿も徐々にダイナミックに変容していきました。途中途中で、ハネト学生らは、みんなで手をつなぎ丸く円になり元気よく跳ね、沿道の人を沸かせていました。一方、参加者の付き添いをしていた学生は車いすを押しながら、参加者と一緒に「ラッセ、ラッセ、ラッセラー」との掛け声をかけ、参加者と一体となっていました。また、今年は、付き添い学生とハネト学生が途中で役割を交代し、付き添いをしていた学生は、ハネトとして思いっきり跳ね、ハネトをしていた学生は参加者と一緒の時と場所、そして感情を共有していました。終盤に国道７号線に入り、盛り上がりは最高潮です。ハネト学生は少し疲れた表情でしたが、ハネト同士で声を掛け合い、また沿道の声援を力にして、最後まで全力を出し切り跳ねることができました。ハネト学生、付き添い学生と参加者が安全にねぶたに参加してもらうために、給水班、大うちわの係、プラカード係、のぼり係の学生が全力でサポートしてくれました。彼らの活躍なしでは、最後まで跳ねることはできなかったことでしょう。21 時をすぎ、青い森公園に戻った際のボランティア学生のやり遂げたという自信に満ち、そして清々しい表情は非常に印象深い光景でした。

食料班

食料班は、通称「ごちそうし隊」。参加者の皆様への昼食や打ち上げ用の食事準備が主な役割です。今年度は、社会福祉学科および栄養学科に所属する１年生 13 名が活動に携わりました。初めての大量調理に奮闘しながらも、ケア付き青森ねぶたの運行を陰ながら支えることができました。直接、参加者の方々と触れ合う機会は少ない班ではありますが、ねぶた出陣前後のエネルギー源となる食事を提供できましたことを嬉しく思います。じょっぱり隊実行委員会の皆様、ありがとうございました。

備品班

備品班（通称：なんでも揃え隊）の主な活動内容は、ねぶたの衣装や参加者の所持品、荷物等の管理・引き渡しです。今年は 11 名の学生が参加しました。はじめに、衣装受け渡しの際の注意事項について説明を受け、実際の受け渡し場面の練習を行い本番に備えました。活動は 2～3 名の組みで、数カ所に分かれて各役割を担いました。出陣前後の浴衣と私服の受け渡しでは混み合って騒然となっているなか、落ち着いて相手の名前を確認し確実に受け渡しを行っていました。協力し合い、練習の成果が発揮された瞬間でした。

備品班は裏方として、参加者が安心してねぶたを楽しんでいただくためのサポートをしています。参加した方々の笑顔が私たちの喜びとなり新たな活力となりました。ありがとうございました。

設営班

設営班（通称：重いもの持ち隊）の主な活動内容は、福祉プラザにおける昼食会場の設営と撤去作業、大型車両への搬送物の積込み作業、青い森公園における大型テントの設営及び撤去作業が主な仕事でした。今年度は猛暑の影響を配慮し、積込み作業は例年よりも限られた時間で行う形となりましたが、参加してくれた 11 名の学生は時間内に終了できるように手際よく作業を進めていました。活動途中では作業場所や運搬場所が急遽変更となる場面も時折みられましたが、班員の学生は混乱せずに迅速な行動がとれていました。設営班は裏方の仕事でしたが、暗い顔一つ見せずに一日の活動を終えた学生達を誇りに思います。

医療班

本年度、大学からは医師資格のある教員２名、看護師資格のある教員２名が参加しました。食事や着替えなど身の回りのお世話をさせていただく中で、参加者の皆様がこの日を楽しみにされている様子が伝わり、こちらも心が温かくなりました。

ケア班で担当になっている学生ボランティアの方々が、積極的に参加者やご家族とコミュニケーションを取っていたのが印象に残りました。今年は厳しい暑さでしたが、運行の中でも参加者の皆さんに目を配りながら、必要な時に医療班に速やかに相談してくれたことで、早めの対処をすることもでき、安全な参加に結びついたと感じました。互いに楽しい、貴重な時間になったと思います。

ボランティア参加者数の推移（人）

年度	学生	教職員	計
平成 20 年度	49	8	57
平成 21 年度	82	8	90
平成 22 年度	38	16	54
平成 23 年度	72	23	95
平成 24 年度	67	29	96
平成 25 年度	67	32	99
平成 26 年度	66	34	100
平成 27 年度	83	29	112
平成 28 年度	72	35	107
平成 29 年度	103	31	134
平成 30 年度	99	27	126

ボランティア活動内容

種類	主な役割
運行班 通称：熱く燃え隊	ねぶた運行の練習や本番で、隊の中心として指揮をとる役割。また、参加者と共に、ハネトとして車椅子を押して参加する役割をします。
医療班 通称：命預け隊	事前に、参加者の健康チェック・バイタル測定をし、安心して参加できるよう目配りをする役割をします。
ケア班（班担当班） 通称：仲良くし隊	衣装の着付け時や車両に乗車時等、参加者やボランティアの皆様を誘導する役割をします。
食料班 通称：ごちそうし隊	皆様の食事、昼食や打ち上げの食事準備やテーブルセッティング、配膳等の役割をします。
備品班 通称：なんでも揃え隊	ねぶたの衣装や参加者の所持品、荷物等の管理・引渡しをします。
設営班 通称：重いもの持ち隊	待機会場の設営、および会場内での誘導等の役割をします。
着付け班 通称：上手に着せ隊	参加者やハネトボランティアに、ねぶた衣装の着付けをお手伝いします。

ボランティア活動後 編

活動を振り返る会　8月４日（金）

活動を振り返る会は、運行班、食料班、備品班、設営班で活動した学生に参加してもらい、当日の活動についての振り返りと発表の場を提供し、各班の活動を通じてのボランティア活動全体の情報共有を目的に実施しました。

開催日は昨年度と同様にボランティア活動の翌日となりましたが、それでも運行班から46 名、食料班から 12 名、備品班から２名、設営班から６名の計 66 名が参加し、67%の参加率となりました。今年度の学生参加者は 99 名と昨年よりも微減となりましたが、疲労が残る中で最後まで能動的に参加してくれた学生が昨年よりも 18%増加したことにボランティア意欲の高さを強く感じました。

会の進行は、はじめに当日の活動で良かった点と、当日の活動での反省点を学生個人で回想してもらいました。その後、運行班、食料班、備品班、設営班のうち、運行班を２グループに分けた計５グループで、グループ討論を実施し、最後に各班の代表学生が口頭発表と意見交換を行いました。各グループの学生は、短い作業時間の中でもお互いの意見を積極的に出し合い、積極的に取り組む姿がみられました。また、当日は班ごとで活動するため、お互いの仕事が見えない側面もあるようでしたが､発表を通じたお互いの仕事に対する共感や理解が深まったようです。昨年度より Web 上でのアンケート調査を導入しましたが、今年度は 81 名が回答し、回答率では昨年の 86%よりも 82%とやや減少がみられました。しかし、回答数の内訳比較では、ボランティア参加に対する満足度は「非常に満足」で昨年よりも 48%から 61%へと増加し、ボランティア活動に対する不満（3.4%→0%）や職業との解離（1.1%→0%）を回答しており、ねぶたの魅力についても全員が「触れられた」と感じる回答が得られました。これらの結果より、昨年は当日の動きに翻弄されたままで終えた学生も回答で見受けられましたが、今年度は不安を感じつつも最終的な満足度は達成できた取組となったようです。ボランティア学生の単年参加ではなく、複数年にわたる連続した参加が今後の課題でもありますが、一つのボランティア活動を通じて表方・裏方の仕事を問わず、情報共有できたことは今後の職業や人生への財産となると思います。

じょっぱり隊結団式

ケア付
青森ねぶた
じょっぱり隊結団式

じょっぱり隊

青森県立保健大学

学生の思い・学び

ボランティア申込み時の学生の思い（抜粋）

- じょっぱりの活動を通して利用者さんとねぶたの楽しさや感動を一緒に共有したいです。今年で３年目の参加となりますが、１年１年違った感動が味わえます。今年もたくさんの方とねぶたを楽しみたいと思います。そして来年も青森のねぶた祭りに参加したいと思ってもらえるように全力で支援していきます。

- 私は、ボランティア活動に興味があり、今回ケア付き青森ねぶたじょっぱり隊に申し込みました。青森の伝統ある夏の風物詩であるねぶた祭りが滞りなく進行するように、自分の役割を全うしたいと思います。よろしくお願いします。

- 私は普段あまりボランティアなどすることはなかったのですが、大学生３年目と、卒業が近づいてきたことから、思い切ってこのじょっぱり隊に参加しようと考えました。今回は、ボランティアとしてサポートするだけでなく、自らも思い切り楽しみながら参加したいと考えました。

- 今まであまりボランティア活動に参加したことがないため、このような大きな活動に参加し、新たな考えや、人との関わり方を学びたいと考えます。これから専門職として働くための視点を更に増やす機会になればよいと思います。

- 大学に入ってから初めて参加するボランティア活動なので、不安もありますがとても楽しみです。入学する前から参加してみたいと考えていたボランティア活動なので、参加する地元の方々に楽しんでいただけるように頑張りたいと思います。

- 私はこの大学に入ったら絶対にケア付きねぶたのじょっぱり隊に参加しようと決めていました。ねぶたは今まで１回しか見たことがありませんが、参加者の皆さんと一緒に楽しみたいと思います。そしてこの経験を生かしてボランティアに対する考えを深めていけたらなと思います。

- ケア付きねぶたは、高校生からぜひ参加したいと楽しみにしていたボランティアでした。障害者や高齢者との関わりの中で多くのことを学びたいと考えています。また、多くの人が一つになって作り上げる喜びと成功した時の感動を感じられるよう自分の役割に責任を持って参加したいです。

- 障害者の方が楽しくねぶた祭りに参加できるようにサポートしたいです。この大学を選ぶ際に、魅力的な活動だと感じており、この活動に参加できることがとてもうれしいです。障害者の方と接したり、安全に楽しむことが出来るように準備したり、それぞれの班で協力して頑張りたいです。

- ねぶたは今まで観光として見ているだけでしたが、青森市の人々の活気についても感動させられていました。今回私もその一員として参加できることがうれしいです。車

椅子の方でもねぶたに参加できるこの企画を成功させたいです。

- 今年初めてのボランティア活動であり、初めてのねぶた祭りなので、非常に楽しみです。自分自身が楽しむだけでなく、地域の人々も楽しんで安心してくれるような活動を心がけていきたいと思います。
- 私は大学入学前から、ケア付きねぶたにとても興味がありました。高校生の時からボランティアに積極的に取り組もうと思っており、大学でも続けていこうと考えていました。障害を持った方と共に青森市の魅力であるねぶたを盛り上げていきたいと思っています。よろしくお願いします。
- 年齢や障害という枠を超え、多くの方々が楽しめるようにサポートするとともに、そのような方と触れ合うことで、コミュニケーション力を高めていきたい。そしてそれが今後の学校生活や将来につながっていくようにしていきたい。
- 私は大学に入る前からこの活動に興味を持っていた。障害のある方や高齢者の方、様々な方が参加できるすばらしい祭りを私もサポートする側から一緒に感じてみたいと思う。また、様々な人と関わることによって将来の仕事にも役立つ。たくさんの人と盛り上がって思い出を作りたい。
- 私は、今までボランティア活動に参加したことがなかったので良い機会だと思い今回申し込みました。ボランティア活動をきっかけに物事に対しての興味の幅を広げられると思います。地域の方々と直接関わることで様々な問題について知ることができ、普段の勉強にこの経験が生かされると考えています。
- 今年度から青森で暮らし始めて、青森の方々のお祭りに対する思いの強さを感じる場面が何度もありました。参加者の皆さんもきっとねぶた祭りを楽しみにしていることと思います。私も是非参加者や保健大の皆さんと一緒に楽しいケア付きねぶたを作り上げたいと思い、このボランティアに応募しました。
- ケア付きねぶたに魅力を感じ、青森県立保健大学を志望しました。高齢者の方や障害を抱えた方と実際に接したり、イベントを作ったりする経験がほとんどなかったので、ケア付きねぶたに参加することでそのような経験を培い、今後の学習や自らの成長に繋げていきたいです。
- 高校生の時からこの大学でケア付きねぶたを実施していることを知っていて、参加したいと思っていました。私は青森出身で毎年ねぶた祭りに参加しているので、全国から来る参加者の方たちにも祭りの魅力を伝えたいです。参加者の方たちと一緒に楽しめるよう精一杯頑張ります。
- このボランティアをすることによって、ケアさせていただく人々に楽しんでもらえるように努めたいです。また、様々な人とコミュニケーションをとることにより、自分自身の経験になるし、成長できると思うので、責任感を持って、仲間と協力したいです。精一杯頑張ります。よろしくお願いします。

第１回ボランティア養成講座参加後の感想（抜粋）

- 講座を聞き、どの班を担当することになっても観察力や臨機応変な対応が必要であり、一つ一つの行動に責任を持ち自主的に動くことが大切だとわかった。体験談を聞き、忙しい場面、大変な場面がたくさんあるが責任のある行動をしつつ自分も楽しむことで参加者を楽しませることに繋がるのだとわかった。

- 今回ボランティア養成講座に参加してみて、ボランティアの核は「自発性」であり、自分が善意の気持ちを持って自ら行動することが大切だということがわかった。先輩方の去年の体験談を聞いてみて、思っていた以上に大変そうだなというのが素直な感想だ。日程が合ったら参加してみたいと思う。

- 先生方や先輩方から去年のねぶた祭の様子や詳しい仕事内容などを聞いて、自分も実際にじょっぱり隊として参加することがより一層楽しみになりました。障害者の方とのふれあいを大事にして、将来看護師として患者さんと接する上で重要なことを学びたいです。

- ボランティアとは、見返りを求めずに自発的に取り組むことであると改めて知ることができた。また、昨年じょっぱり隊に参加した先輩方の話を聞き、大変さや楽しさ、やりがいを感じられると知れたため、とても魅力を感じた。ボランティアは自分自身の成長にもつながると思った。

- ボランティアの性格について理解することができた。自主性や主体性、利他性を大切にしてボランティアに参加したい。ボランティアは必ずしも感謝されるものではないというのは実際にも経験があったのでとても納得した。一生懸命ボランティア活動をすることで助かる人が一人でもいればいいなと思う。

- ボランティアは自分が感謝されるため、自分の居場所を探すために行うものではなく、人のため、社会のために行うものだということがわかった。ボランティアは偽善であると言われようと、助けを必要としている人達の「利」に繋がることができるのなら、私はボランティアに是非参加したいと改めて感じた。

- 体験談を聞くことができ、じょっぱり隊について理解が深まりました。また、ボランティアの総論を学ぶ機会は少ないので貴重だったと思います。特に印象的だったのは、ボランティアの特徴に「善」はないということです。この講座を今回だけではなく、今後のボランティアにも活かしていければと思います。

- 今回ボランティア養成講座を受けて、今までのボランティアへの見方が変わりました。私は、じょっぱり隊を通して自主性と主体性、利他性に重きをおいてこれに関わるたくさんの人たちと協力してこのイベントを楽しみたいと思います。初めてのねぶたなのでわくわくしています。

- じょっぱり隊に参加する上で何班にしようか迷っていたが、先輩達の話を聞いて仕事

内容が理解出来てよかったです。また、本来のボランティアの意味をしてたし、迷っている時点でやった方が良いと知り、その精神を何事にも活かそうと思いました。

- ボランティアとはどういうものかを理解することができました。また、実際に先輩の声を聞くことができたので、じょっぱり隊がどういうものか、班によって異なる活動内容をしっかり理解することができたのでよかったです。
主体的に動き、実りあるボランティアにしたいです。

- 今回ケア付きねぶたのためのボランティア養成講座に参加して、今までぼんやりしていたボランティアの定義をはっきりさせることができ、ボランティアに参加する上での心構えなどを学ぶことができた。ボランティアに参加される方々と自分のキャリアのために尽力したい。

- ケア付きねぶたに参加したい、というのが保健大を志望した理由の一つでもあるので、ケア付きねぶたでは具体的にどのような仕事を行うのか、どのような心構えが必要なのか、といったことを知ることができ、より一層気合が入りました。先輩方の体験談を参考にして、希望の仕事を見つけたいです。

- 今回の講座で、ボランティアには善という概念はなく、また感謝は必ずしも返ってくるとは限らないことを学んだ。じょっぱり隊に参加するときは、社会性や連帯性を大切にしたい。今年のボランティアの経験を生かし、来年も参加したいと思う。

- ボランティア養成講座を受けて、常に相手の為に行動するという事を忘れず自主的にボランティア活動中も取り組んでいきたいと感じた。また、じょっぱり隊では同じ班の人との連帯力や利他性を意識していきたい。そして、良き経験となるように自ら考え行動していきたい。

- 講演を聞いて、ボランティアがどのような社会的意味を持つものなのかが分かりました。昨年、じょっぱり隊に参加した先輩方のお話を聞くことで、具体的にどのような仕事をしたのかが分かりました。自分もじょっぱり隊に参加したいという気持ちが強くなりました。

- 今日ボランティアについての話を聞いて、ボランティアは自発的にすることや利他性が大事だと言うことを学びました。自分がボランティアをする際は迷惑なボランティアにならないようにしたいと思いました。

- ケア付きねぶたにじょっぱり隊として参加する為にボランティアについて学びました。ボランティアは自発性が大切であり、ボランティアに「善」という考え方は無く、実際に行動できる人が助けになると学びました。ボランティアとは何かしっかり心に留めた上でケア付きねぶたに参加したいと思います。

- ボランティアの性質や起源を知る事ができ良い勉強になった。主に自主性、主体性によってボランティアは成り立っており自分探しの為ではないという所に共感した。また、先輩方の話を聞いてねぶたの具体的な活動内容や心構えを聞くことができとても参考になった。

第２回ボランティア養成講座参加後の感想（抜粋）

・　今日のお話を聞いて今年は参加できないが来年は参加したいと思った。自分が予想していたよりも多くの人がこの活動に参加していて、保健大の学生だけでなく多くのボランティアさんがいらっしゃって、私もその多くの人の１人になりたいと思った。

・　「ねたきりになら連」の波紋で全国４番目に障がい者と一緒に参加する祭り「じょっぱり隊」が発足したと学びました。またじょっぱり隊はトラブルなどが付き物であると学び合言葉を意識して有終完美を目指し、参加して良かったと思えるように一生懸命頑張りたいです。

- じょっぱり隊の役割それぞれに通称があるというのを初めて知り、その通称からすべての役割が参加者に対する思いやり・心遣いを持ってボランティアに臨むことが大切だと分かった。参加者はそれぞれの人生を背負って参加してくださっているので、その中にいい思い出を添えられるよう頑張りたい。

- 閉じこもりがちな障害者の方々が車椅子でねぶた祭りに参加することを支援するために結成されたじょっぱり隊の活動内容を知って、すごく思いやりのある活動だと感じました。また、10 種の班があり、全て素晴らしいが、特に食料班のソフト食などの細かい配慮ができているのが素敵だと思いました。

- 毎年行うボランティアであるからこそ綿密な計画が練られていて、参加者だけでなく、ボランティアも楽しんでいけるような工夫がされているのだと感じました。全国から参加者やボランティアが集まっているということに驚きと、私自身、地元民であるからこその嬉しさを感じました。

- 今回の講座を受けて、ケア付きねぶたには様々な境遇の方が参加し、それぞれ違った思いを持ってのぞんでいることを知りました。私は運行班なので直接参加者の方と触れ合います。私は初めてねぶたに参加するので皆さんと一緒になって楽しみたいと思います。

- ケア付きねぶたはボランティアを通して、さまざまな家族のドラマに触れ合うこともある素晴らしい活動だなと思いました。初対面の人には大きな声で、常に笑顔を意識して、私が主役、みんなが主役という気持ちで、当日はお互い支えながらねぶたを盛り上げたいと思います。

- ケア付きねぶたじょっぱり隊は、様々な人と関わり、人々の心を動かすものであるとわかった。ボランティア活動をする際には積極的にものごとに取り組み、チャレンジすることも大切であること、どのような活動でも人の役に立つことであるのだもいうことを学んだ。さらに、青森ねぶたにも興味が出た。

- 今回のボランティア養成講座を受けて、ケア付きねぶたについてよく知ることができました。ケア付きねぶたを通して参加する高齢者や障害者の方々の持つ物語に触れる

ことができるところがとても魅力的でした。写真をみて、多くの人と触れ合っている様子をみて、ボランティアに参加してみたくなりました。

- 講座を聞いて長年続くじょっぱり隊にはたくさんの参加者と直接的に支える人、ノーマライゼーションの考えのもとじょっぱり隊を作った人、活動費など影で支えてくれている人など多くの人が協力し、みんなで作り上げているということがわかった。私もその１人として責任もって頑張りたい。

- ケア付きねぶたじょっぱり隊の概要が知ることができて良かった。じょっぱり隊は全国各地からの協力があり、成り立っているのがわかった。じょっぱり隊の参加したご家族のエピソードを聞いて、自分も誰かの物語の一部になりたいと感じた。本番でもボランティアの精神を持って取り組んで行きたい。

- 以前から、ケアつきねぶたのボランティアに興味をもっていたが、今回の講演会を通して、より一層ボランティア参加への気持ちが高まった。特に、「一人一人がストーリを持っている」という言葉が印象てきだった。参加者全員がねぶた祭りをよい思い出にしてもらえるように、全力でサポートしたいです。

- 私は、ボランティアに参加すると達成感を感じたことがある。身体に障害が有る参加者は人生が変わったという物語があるということを知ったので、わたしもこれからボランティアに参加して、このような物語を一緒につくる手助けをし、笑顔にしたいと感じた。

- ケア付きねぶたの感動エピソードが心に沁みました。私も誰かの絆を取り戻す、或いは作り出す仲介人になりたいと思いました。

- じょっぱり隊に参加することでボランティア同士で新しい交流が広がり、若者と高齢者とが共生する地域社会をつくるきっかけになるということを学んだ。緊張して表情が硬くなって声がけができなくなると、相手は楽しくないと思ってしまうので、いつも笑顔で盛り上げることを心がけて参加したいと思った。

- ボランティアの紹介を受け、前回の第 22 回ケア付きねぶたでは、300 名以上のボランティアの参加者がいると聞き、その大きな輪から欠けることのない存在でありたいと思った。そして、設営班として、ケア付きねぶたを下から支え、成功のために尽力したいと思った。

- 本格的にじょっぱり隊での班決めも決まり、もうすぐ祭りが始まるのだなという感覚を覚えた。講座の中でもあった「じょっぱり隊にはドラマがある」という話を聞いて、自分もそのドラマを支えられる存在になれるように頑張りたいと思った。

- 「じょっぱり隊」は 20 年以上続くねぶた祭りには欠かせないボランティアになっていることが初めて知れた。全国からの参加者が多数いたり、参加者家族に良い影響を与えたりとボランティアは、様々な人に大きなものや経験が得られる場であると感じた。自分もボランティアを通して良き経験を得ていきたい

活動を振り返る会参加後の感想（抜粋）

	感想
運行班	• 今までもねぶたに参加していましたが、今回のようにたくさん跳ねたのは初めてでした。参加者の方と一緒に掛け声をかけたり、会話をしながら楽しめたのは良かったです。また、参加者にありがとうと言われて、嬉しかったです。 • 跳ねるのは疲れたけれど、楽しめた。客席の人もラッセラーと声を出してくれて、一体感を感じた。 • 参加者の方と一緒にねぶたを楽しむことができて、とてもよかった。今回が初めての参加でしたが、青森の文化を身をもって体験し、感じることができた。 • 参加者の方との交流を通じて、障害ある方に対する話し方、目線の合わせ方、接し方を学ぶ事ができた。９月に実習が控えているので、良い経験になったと思う。
備品班	• 指示をしっかり聞くことと指示される前に自分から行動することの大切さを学んだ。 • 12 時間の活動はとれもハードだったが、初めてのねぶた祭に参加することができて楽しかった。 • 待ち時間が長く、あとどの位の時間を待つのかが分からずに困惑することが多かった。
食料班	• 裏方で参加者を支える仕事も大切だということを学んだ。 • ゴミの分別などは大変だったが、参加者全員に食料をてきぱきと配ることができた。食料班全員と協力して、食事を作るのが楽しかった。 • 作っている時も配膳している時も立ち仕事が多くて大変だった。自分たちが用意している食事を食べてもらい、おいしいと言ってくれて嬉しかった。 • 立ち仕事が多くて大変だと思う時もあったが、たくさんの人に喜んでもらえたし、充実した１日を過ごすことができた。
設営班	• 普段は表舞台ばかりに目が行きがちで、裏方の仕事はみられないが、今回の活動で裏方の仕事の大変さを知ることができた。 • 初めての設営に関するボランティア活動でしたが、人の役に立てている実感が湧いて良かった。このようなお祭りなどのイベントの裏には、今回のようにたくさんの人の支えがあることに気付いて良かった。 • 設営班の仕事内容がはじめは分からず、ただついていくだけであったが、最後には自分から行動することができた。 • 特に光が当たる仕事ではなかったが、自分達がやる仕事で、運行班や他の班がスムーズに動いている様子を見て、なくてはならない仕事だと思ったし、重要であると思った。

活動を振り返る会参加後の良かった点、反省点・要望（抜粋）

	良かった点	反省点・要望
運行班	• 参加者と話す時間が十分に確保できた。 • 食事が参加者の方を一緒に摂る形で良かった。 • 付添いの学生とこまめに情報交換を行いながらサポートができた。 • 声が出ない方でも、口の動きと眼の動きを見て、コミュニケーションをはかることができた。	• 参加者が寒がっている際に対応が遅れてしまった。 • 車イスの操作に慣れておらず、移動する際に不安な思いをさせてしまった。 • 参加者との会話中に沈黙してしまう場面があった。 • ハネト同士で交代する場所が分からなくなってしまった。
備品班	• 最後の最後に、参加者の方に「とても楽しかった」と言われて良かった。 • 班内での役割分担がきちんと行われていた。	• 予定通りの時間に仕事が終わらず、後ろ倒しになる時が度々みられた。 • 班の担当者の方と連絡が取りづらかった。 • 備品の管理が徹底されていない場面がみられ、衣類の受け渡しなどでバタバタする場面があった。
食料班	• 班の人たちと協力し、うまく連携し合いながら活動を進めることができた。 • ご飯作りや配膳をてきぱきと出来た。 • 進んでゴミなどを回収できた。 • 衛生面に気を付けることができた。	• 手が空いた時に、進んで仕事を見つけようとしない場面が時々あった。 • カレー皿とスプーンを一緒に入れている人が多く、分別が大変だったので、ゴミ袋にペンで表記した方が良い。 • 直前になって分かることが多かったので、先を見越した行動ができなかった。 • 自分の食事時間を確保できず、一部は食べながらの配膳となってしまった。
設営班	• 学生自身が仕事内容を聞きに行き、積極的に行動できた。 • ケガを誰もすることがなく、活動を終了することができた。 • 声を掛け合いながら、協力して作業を実施することができた。	• 指示を待つ場面があり、自分から仕事を探すべきであった。 • 備品班との連携がうまくいかず、衣類の紛失が起こってしまった。 • ネームプレートが汗で剥がれやすかった。 • 照明の光量が足りず、夜間時の運搬に支障が出た。

ケア付きねぶた活動を振り返る会アンケート結果
平成 29 年度と今年度との比較

	Q1.所属学科を選択してください。			
	看護学科	理学療法学科	社会福祉学科	栄養学科
H29	51.7%	13.5%	16.9%	18%
H30	34.6%	27.2%	22.2%	16%

	Q2.該当する年次を選択してください。			
	１年	２年	３年	４年
H29	89.9%	6.7%	2.2%	1.1%
H30	90.2%	1.2%	8.6%	0%

	Q3.性別を選択してください。	
	男性	女性
H29	7.9%	92.1%
H30	11.2%	88.8%

	Q4.今までにボランティア活動をしたことはありますか？			
	はじめて	１-２回	３-４回	５回以上
H29	28.1%	29.2%	14.6%	28.1%
H30	37%	24.7%	17.3%	21%

	Q5.「ケア付きねぶた」へのボランティア参加は今回がはじめてですか？			
	１回目	２回目	３回目	４回目
H29	92.1%	7.9%	0%	0%
H30	98.8%	1.2%	0%	0%

	Q6.今回の参加を通じて、「ねぶた」の魅力に触れられたと思いますか？	
	そう思う	思わない
H29	98.9%	1.1%
H30	100%	0%

	Q6-1.それはどのような点ですか？あなたの考えを教えてください。　（ねぶたの魅力について）
H30	・いろんな人達と楽しく交流できる点。 ・青森県内だけではなく青森県外の方たくさんと一体になれるねぶたは素晴らしいと思ったから。 ・ねぶたはたくさんの人の力や思いが詰まったものであり、参加しその一員とな

	ることで、そのことがラッセーラの掛け声や太鼓や笛、鈴の音から実感できた点。 ・ねぶたに参加している人も、見に来ている人も 1 つになって熱く祭りを作り上げている点。 ・ねぶた祭りという大きな祭りは、ただ見て楽しむのではなく、多くの人を支えながらでも楽しむことができるということがわかった。どんな状況でも楽しめる祭りがねぶた祭りであり、その点が魅力であると感じた。今回はそのような点に支える立場として触れられたと感じる。

	Q7.「ケア付きねぶた」のボランティアに参加しての満足度はどれに当てはまりますか？				
	非常に満足	とても満足	満足	不満あり	非常に不満
H29	47.7%	31.8	17%	3.4%	0%
H30	61.2%	18.8%	20%	0%	0%

	Q7-1.それはどのような点ですか？あなたの考えを教えてください。　（ボランティア活動について不満度）
H30	・車椅子に乗った参加者さんや付き添いの方、関係者の方々、各学科の学生、先生方などたくさんの協力があったからこそ、大変だったがみんなで楽しむことができたと感じた。 ・たくさんの方と交流出来た点。高齢者の方の元気な姿、喜んでいる姿にとても感動した。 ・実習よりも多く高齢者の方とお話しすることができ、人生のアドバイスをして頂いたりとたくさん勉強になった点。高齢者の方や障害者の方と共に生きるということを、短い時間ではありましたが実感することができた点。 ・身体が不自由な人に「楽しかったありがとう」と言われて、参加して本当に良かったと思った点。一つのことに一緒になって、挑戦し達成できた点。 ・参加者の方々との関わりで学ぶことだけではなく、その参加者を取り巻く医療従事者などのボランティアの方々の様子を見て、自分の未熟さや、現状を見ることが出来、授業を聞いて学べることではないことを学ばさせていただきました。

	Q8.「ケア付きねぶた」でのボランティア活動は、今後の目指す職業において役立つと思いますか？				
	非常に思う	とても思う	思う	あまり思わない	思わない
H29	57.3%	25.8%	16.9%	1.1%	0%
H30	64.6%	21.5%	13.9%	0%	0%

	Q8-1.それはどのような点ですか？あなたの考えを教えてください。　（ボランティア活動と将来職業関係について）
H30	・車椅子の扱い方や参加者さんのことを考えながら行動することは今後生かして行けると感じた。また、他学科の学生や様々な人と協力し、連携を取れたのもこれから役立てて行けると感じた。 ・障害のある人など、近くで関わることで学べることもあるし、家族の障害や病気などとの関わりも学べる。 ・言葉を発することが出来ない人ともコミュニケーションを取る点 ・高齢者や障害のある方への接し方や考え方をこの活動で見つめ直すことができ、そのことは福祉職として重要であると思う。 ・社会福祉士は仕事が相談援助であり、支援そのものを「前線」とするならば、「裏方」に当たると考える。今回、裏方の大変さや、人を支えることを学べた気がする。それは今後に活かせると考えたから。

	Q9.「ケア付きねぶた」に次年度も参加してみたいと思いますか？	
	参加したい	そう思わない
H29	87.6%	12.4%
H30	88.8%	11.2%

	Q10.ボランティア活動をより良いものにするために、今回のアンケート結果を活用しても良いですか？	
	承諾する	承諾しない
H29	100%	0%
H30	100%	0%

ケア付きねぶた推進委員会の活動概要

＜活動内容＞

① ボランティア募集（６月７日～７月９日）

ポスター、チラシ、掲示板、会議での周知等を図り、ボランティアを募集しました。

② ボランティア養成講座の開催（６月 20 日及び７月 21 日）

第１回ボランティア養成講座及び第２回ボランティア養成講座を開催しました。

③ オリエンテーションの実施（７月 21 日）

ボランティア参加学生対象のオリエンテーションを開催し、しおりの配付・説明、班分け・役割の確認、連絡系統の確認等を行いました。

④ バスの手配（４月～直前）

ボランティアに参加する学生・教職員の移動手段を確保するため、大学のマイクロバスの他、大型バスを手配し、ピストン移動などの調整を行いました。

⑤ しおりの作成（７月～直前）

学生ボランティアのしおりを作成し、スケジュール調整、移動経路等の調整、留意事項、緊急連絡先等を定めました。

⑥ 定例記者発表（７月 25 日）

定例記者発表で学生のボランティア活動支援や単位認定について広報しました。

⑦ 事前説明会の実施（８月２日）

ボランティア参加学生及び教職員を対象とした事前説明会をそれぞれ開催しました。

学生からは、事前に配布したしおりをもとに質問を受け付けました。

教職員には当日スケジュール等について説明しました。

⑧ 推進委員の参加（４月～当日）

推進委員が各班の担当者となり、円滑にボランティア活動を行えるよう、実行委員会と学生・教職員との橋渡し役をしました。また、各班に推進委員を配置することで、万一のときの連絡体制がとれるようにしました。

⑨ 学生の識別方法の工夫（直前～当日）

活動当日、たくさんのボランティアの中で本学の学生を識別できるよう、参加ボランティア学生全員に、本学オリジナルＴシャツ、防水加工したステッカーを作成、配布しました。ステッカーは学生や教職員を色別に分けました。

⑩ 医師・看護師の派遣（～当日）

実行委員会からの要請により、医師２名、看護師２名を派遣しました。

⑪ プライマリー・ケア担当学生の指導（オリエンテーション時）

実行委員会と協力し、プライマリー・ケアを担当する学生には、事前に参加者情報を確認させ、自分が担当する参加者さんについて知ってもらいました。

⑫ カメラマンの手配

本学が委託する広報カメラマンに撮影を依頼しました。

⑬ 活動を振り返る会の開催（８月４日（土））

活動を振り返る会（報告会）を開催しました。

⑭ 報告書の作成及び配布（９月～10 月）

本報告書を作成し、関係機関に配布しました。

＜会議開催概要＞

① 第１回：６月　４日（月）10 時 20 分～11 時 20 分

役割分担、ボランティア募集、ボランティア養成講座の開催について話し合い、実行委員会・ボランティア会議内容の確認を行いました。

② 第２回：７月 12 日（木）14 時 50 分～15 時 40 分

実行委員会・ボランティア会議内容の確認、第１回ボランティア養成講座実施結果の確認、ボランティア申込状況の確認、役割分担、詩織の作成、緊急時の連絡体制、第２回ボランティア養成講座及びオリエンテーション開催結果の確認、直前説明会及び活動を振り返る会の開催予定について話し合いました。

③ 第３回：８月　２日（木）13 時 40 分～14 時 00 分

ボランティア養成講座及びオリエンテーションの開催結果の確認、実行委員会・ボランティア会議内容の確認、定例記者発表結果の確認、活動を振り返る会の開催予定について話し合いました。

④ 第４回：９月　６日（木）15 時 00 分～15 時 40 分

活動を振り返る会の開催結果及びアンケート結果の確認、報告書作成、今年度の活動における課題及び次年度の引継事項について話し合いました。

平成 30 年度　ケア付きねぶた推進委員会

顧　　問	学　長　上泉　和子
委 員 長	地域連携推進・国際センター長 教　授　吉池　信男
委　員	
学生部長	教　授　杉山　克己
看護学科	准教授　谷川　涼子
	助　教　石田　徹
理学療法学科	講　師　漆畑　俊哉
	助　教　マイケル・スミス
社会福祉学科	講　師　岡田　敦史
	助　教　山田　伸
栄養学科	准教授　大野　智子
	講　師　小笠原　メリッサ
教務学生課	課　長　鹿内　亮一
地域連携推進課	総括担当　川嶋　尚孝
事務担当	
地域連携推進課	主　査　伊藤　彩子

発行：青森県立保健大学　地域連携・国際センター
ケア付きねぶた推進委員会
平成 30 年 10 月